

昼下がりのキッチンのファイター

格闘家の俺にとって、セックスと格闘技は切っても切りはなせないものだ。

端的に言えば、セックスしないと、格闘技ができない。

セックスを途切れさせれば練習に身が入らないし、試合でも使い物にならなくなる。

この因果関係に気づいてからというものの、絶やさず女と体を重ねていたが、建設的なやり口とはいえなかった。

そりゃあ、女関係がただれるし、トラブルにもなる。

ネット全盛期の今となつては、ビンタだけでは済まされず、腹いせに真偽の定かでない情報を拡散され、仕事にまで響いてくる。

セックスして万全に臨もうとしても、お叱りを受け「頭を冷やせ」と練習や試合をやらせてもらえなくなるのだから、まったく割りに合わない話だ。

そもそも、セックスしたら強くなるわけでない。
調子が下がるのを、防いでいるに過ぎない。

セックスの回数を重ねることに強くなれるなら、気分が上がるものを、あくまで予防策と思えば、「何のためにセックスしているのか」と虚し

くなることがあった。

無名で弱いまま、低空飛行するのを保つのに精一杯では、上りつめる見こみはないのではないか。

もしくは己の才能では低空飛行が限界で、はじめから上空を目指せる可能性はなかったのではないか。

ただでさえ、低空飛行から抜けだす、突破口も見いだせずに、迷走を
していたところ。

女関係で大炎上して、ファンにそっぽを向かれるだけでなく、「男の腐ったの」「去勢しろクズ」と一般人から叩きに叩かれまくったときは、金欠にも追いつめられて、「引退」の二文字が押し加かってきて、屈し
そうになった。

それでも、諦めきれずに、せめて練習に励もうとしたが、協会にお灸を据えられて、女に手をだせなくなり、で、セックスできなければ、如実にパフォーマンスが落ちるといふ悪循環に陥り。

難儀な俺の体質と、にっちもさっちもいかなくなっていた当時の状況を鑑みたら、友人とビーチの勧誘に騙されて、男に犯される動画を撮られたのも、致し方ないと、同情してくれると思う。

まあ、俺が騙されやすいのは否めず、それにしても、相手は手慣れていたもので、そんな詐欺師まがいには、動画をちらつかせ、脅されなかったのは運がよかった。

不本意だが、よかったと思えることは、他にもある。
この一件がトラウマになるどころか、格闘家として一皮剥けるきっかけ

けになったのだ。

騙されて男に犯される経験を経て、「セックスをしないと格闘技ができない」説が、根本は変わらないながら、一新された。「男に犯されると強くなる」説だ。

男にレイプまがいのことをされた、翌日から一週間ほど「どうした！生まれ変わったみたいだな！」「おいおい、なんか、薬でもやっているのか！」と練習で驚愕され絶賛をされつづけた。

前は女を抱くのを欠かすと、すぐに調子を崩したのが、男に犯されてからというものの、セックスしなくても絶好調ぶりが継続をしたという、こうも観面に結果が示されたのだった。

一週間を過ぎても、記憶をおかずに自慰をするだけで、効果は持続され、調子が鰻上りのまま、ついには大会で優勝まで果たした。

が、「男に犯されて強くなる」なんて、男としては、中々、認められなかった。

男に犯されて、尊厳を傷つけられはしたが、男も女のように善がることがあるのだと、これまでの概念を覆されたのは、有益なことだったかもしれない。

やせ我慢したり、意地を張っているだけで、女に劣らず、男も敏感なもの。

あらためて、そう意識したことで、対戦相手の弱点が見えるようになった。とかなんとか。

強くなった理由が他にあるものとし、あれこれ理屈をつけようとしたが、無駄だった。

なにせ、男に犯され善がる体になったのを、元に戻そうとして、闇雲に女とセックスをしたら「懲りないな！お前！」と協会に謹慎処分を叩きつけられ「自業自得なのに、そんなショックだったのか？」と練習で呆れられるほど、とたんに弱くなったのだから。

それでも、「男に犯されたら強くなる」なんて認めたくなくて、男に手をださないでいたものを、まともや騙まし討ちのように双子に犯されて、翌日には早速、調子がV字回復したとあっては、もう抗えなかった。

動画を撮られた上で「俺たちの」（僕たちの）恋人になってください」

と告白されたこともあり、以来、双子に犯されつづけた俺は、試合に勝ち、大会で優勝。

掌返しにファンに熱狂され、次々とイベントや大会参加の依頼をされ、誰もが試合をしたがって、ファイトマネーは上がるばかりと、順風満帆の格闘技人生を歩んだ。

私生活もその間は、双子との関係性は良好のまま、前のようにセックスキャンダルで叩きつぶされることも、協会に口だしされ「いつそ保険入って死ね！」と注意(?)されることもなかった。

